

雨池排水区 大規模雨水処理施設整備事業計画 (四日市市)

項目	内容・施策等
選定理由	<p>雨池排水区は、既計画において5年確率降雨（54.0mm/h）対応として雨水ポンプ場を整備し、下流から雨水幹線を整備して集水範囲を拡大する方針であったが、雨池排水区における当該地区において、既整備区域ではあるが近年の局地的短時間豪雨や、都市化の進展による雨水流出量の増加により、浸水被害が発生しており、早急な浸水対策が急務である。なお、雨池排水区は過去10年間に100戸以上の浸水実績があり、雨池排水区における床上・床下浸水戸数は以下のとおりである。</p> <p>【雨池排水区】床上浸水戸数：15戸　床下浸水戸数：88戸</p>
整備目標	<p>①本計画における対象降雨</p> <ul style="list-style-type: none"> 本計画におけるハード対象降雨：73.8mm/h (※10年確率降雨(67.0mm/h)に気候変動の影響を踏まえ降雨変化倍率1.1倍) 目標とする理由：平成18年以降 三重県降雨強度式を採用：67.0mm/h×1.1 ハード整備による整備水準の目標：73.8mm/h (10年確率降雨×1.1) <p>②目標設定</p> <ul style="list-style-type: none"> i) 生命の保護の観点：雨池排水区の住居地域である浸水常襲地区において、床上浸水を防止する。 ii) 都市機能の確保の観点：機能保全水深を20cmと設定する。 iii) 個人財産の保護の観点：家屋の床上浸水を防止する。 iv) その他：特になし <p>③ハード対策、ソフト対策及び自助の役割分担について</p> <ul style="list-style-type: none"> i) ハード対策 5年確率降雨(54.0mm/h)から10年確率降雨×1.1(73.8mm/h)の見直しを行い、計画雨水流出量を算定し、既存のポンプ場や雨水幹線を能力評価し、能力が不足する分について雨水調整池を整備して浸水被害を防止する。 ii) ソフト対策及び自助 施設整備で対象とする降雨量を上回る想定最大降雨147mm/hにおいて、下水道管理者による内水ハザードマップ作成・公表などの情報提供、水路・雨水ます等排水施設の事前点検・清掃、開発行為に伴う浸透樹・浸透性舗装・盛土・調整池の検討等の指導を行うなど、市街地部の浸水深を機能保全水深20cmにとどめ、被害をできるだけ小さくする。

(様式1)

項目	内容・施策等			
内水ハザードマップ策定状況	<ul style="list-style-type: none"> 有 (平成 年 月 日策定済み) 策定予定 (令和5年度策定予定) 			
主な事業内容	公助	ハード対策	下水道管理者	・雨水調整池の整備 貯留容量 20,100m ³ (必要調整池容量 19,800m ³)
			下水道管理者以外	—
		ソフト対策	下水道管理者	<ul style="list-style-type: none"> 内水ハザードマップの作成・公表における情報提供 水路・雨水ます等排水施設の事前点検・清掃 開発行為に伴う浸透枠・浸透性舗装・盛土・調整池の検討等の指導 緊急用土のうの配備 局部改良（簡易的な対策により、雨水排水対策効果が見込める整備）
			下水道管理者以外	—
	自助	ハード対策		—
		ソフト対策		—

年度計画（百万円）

名称	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	計
用地補償	18	270	—	—	—	—	288
雨水管渠	—	—	50	860	860	860	2,630
計	18	270	50	860	860	860	2,918

項目	内容・施策等
整備効果	<p><事業評価の内容></p> <p>浸水被害の軽減便益年平均被害軽減期待額：3,995 百万円/年が削減される。</p> <p>B/C : 30.8</p> <p><その他の定量的な効果></p> <p>5年確率降雨整備から10年確率降雨整備水準に引き上げる。</p>
その他	「四日市市雨水管理総合計画」を策定し、重点対策エリアに位置付け、優先的に取り組むべきエリアとして計画策定を行っている。

【位置図】雨池排水区 大規模雨水処理施設整備事業計画(四日市市)

